

「新制度のゆくえ」



理事 小畑 くるみ

平成27年4月から新制度が始まりました。当法人では今のところ大きな混乱はなく、事務の煩雑さはあるもののなんとかおさまっています。

思い起こせば、6年前に長女を出産し、職場復帰のため保育園を探し始めました。当時は、今のよう新しい保育園はほとんどなく、0歳児で申請した保育園は自宅から数分で通える公立保育園のみでした。他の保育園は車で15分以上かかる所ばかりで駐車場も確保が出来そうもなかったため希望しませんでした。しかし、フルタイムの私が（近隣の自治体なので少なからず私の仕事は理解してもらえていると考えたため）保育園に入れなければないと強く思い申請をしました。が、見事に不承諾証明書が1枚、ペラリと送られてきました。役所にお尋ねをしましたが、「その通りです。」とそっけない答えが返ってきました。そこから、色々動き最終的には知人に1年間預かってもらい職場に復帰いたしました。

1歳児での申請は、かなり早くからリサーチをして車で片道15分程度の民間の保育園を希望し、入園が出来ました。先生方も優しく、娘も楽しそうにしていたので安心して仕事をする事が出来ました。お世話になった先生方、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

このような経験をして、ワーキングママには保育園が重要なアイテムであることは十分に理解しました。出来るだけ仕事に集中できる環境と子ども1人ひとりをしっかりとみることで出来る保育園が絶対に必要だと身に染みしました。そして、地域のため・子どものため・そして何より仕事をしているママたちのために、自治体と近隣の方のご協力の下、平成25年4月に当法人として2つ目の保育園を誕生させることができました。開所当時は様々な課題もありましたが、なんとか軌道に乗り、異年齢保育を取り入れた新しい保育にチャレンジしています。

さて、新園が出来て職員も増え、今までにはなかった課題も多くなってきました。1つ目は、保育業界全体の課題となっている求人の問題です。職員の数が増えることで、異動もあり毎年数人の職員を確保しなければならないということになりました。そこで、当法人は東京都民間保育園協会主催の保育園フェアに毎年出展させていただいています。ブースには新人保育士を中心に配し学生さんに法人の特徴をしっかりと説明できるように事前に練習をして臨んでいます。毎年、数名は園見学に来ていただき、数名の採用につながっています。

2つ目に、職員のモチベーションを保つことです。少人数であれば、声掛けや様子を見ることで対応できていましたが、そこが難しくなってきました。そのため、経営コンサルにも相談しながら、月に1度の経験別研修を行っています。また、その中でキャリアルートの再構築をしている最中です。職員にとって長く勤めたい職場がどのような所なのか、リーダーの職員と日々考え努力をしています。

そして、冒頭での娘は年長になりました。以前に比べて保育園が多くなり、現在3歳以上児は希望の園に入れることが多くなり驚くほどの変化です。また、卒園が近くなるこの時期、決まって保護者からの要望は、「学童保育を運営してください。」という事です。“小1の壁”対策です。もうかれこれ10年前くらいから毎年要望があり、近隣の小学校に併設している学童保育は1年生しか入れないのだそうです。確かに、学童には入れないので自宅で親の帰りを待っている卒園児の話の聞くと「真っ暗になると怖いので、テレビを見て待っている。」とのこと。少し都合がよすぎる気もしますが、あながちウソではないと思います。よほど、しっかりした子でなければ、学校から帰って宿題をして、明日の支度を完璧にこなし、テレビを見るという風にはいかないので、保護者は困っているようです。そのようなことを踏まえ、自治体にご協力いただき、11月より本園の改築を行うことが決定しました。学童保育併設の保育園です。これから、様々な方々のご協力をいただきながら新しい学童保育を作っていこうと思います。

閑話休題、新制度が始まり、認定こども園に移行をする園も多くなってくるとは思いますが、いずれにしてもワーキングママ達にわかりやすく、子どもたちに良い保育が施され、保育士達が伸び伸びと仕事出来ることを願ってこの激動の時代を乗り越えたいと思います。